

秋の交通安全

平成26年

9月21日(日)

9月30日(火)

県民総ぐるみ運動

目指せ!交通安全日本一

9月30日(火)
交通事故死ゼロ
を目指す日

運動の基本

子供と高齢者の
交通事故防止

運動の重点

東北楽天
ゴールデンイーグルス
#14 則本 昂大
© Rakuten Eagles

- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
(特に、反射材用品等の着用の推進及び自転車前照灯の点灯の徹底)
- 全ての座席のシートベルトと
チャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転の根絶

宮城県・宮城県警察・(公社)宮城県トラック協会

宮城県警察
ホームページ内の
交通情報のページに
リンクします。



秋の交通安全

県民総ぐるみ運動

運動の基本

子供と高齢者の交通事故防止



- ドライバーは、子供やお年寄りを見かけたら、一時停止や徐行など思いやり運転を心がけましょう。
- 学校や地域ぐるみで通園・通学時の交通安全指導や保護・誘導活動を促進しましょう。
- 高齢者は年齢による能力の変化を認識し、慎重な運転、安全な歩行を心がけましょう。

運動の重点

夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

ドライバーのみなさん

- 夕暮れ時や夜間は、歩行者・自転車の動向に注意し、安全運転に努めましょう。
- 夕暮れ時は、早め点灯「午後4時ライトオン」を実践しましょう。
- 夜間走行時は、「ライト上向き」が基本です。

歩行者、自転車のみなさん

- 夜間の外出は、明るく目立つ色の服装と反射材用品等を着用しましょう。
- 道路を横断する時は、安全をよく確認しましょう。
- 自転車の無灯火走行は大変危険です。夜間の前照灯点灯を厳守しましょう。



反射材用品等なし



反射材用品等あり



自転車用LED安全ライト
自転車に簡単に取り付けられ、自動点滅するなどアビールカのある安全グッズ

運動の重点

全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

平成25年、県内の四輪乗車中の死者は47人。このうち、23人がシートベルトを着用していませんでした。この23人中15人は、シートベルトを着用していれば、命が助かったものと思われます。

●シートベルト着用状況調査結果

対象	全国平均	宮城県	順位
運転席	98.0%	98.7%	14位
助手席	93.9%	96.1%	11位
後部席	35.1%	23.2%	42位

※平成25年10月1日～10日
一般道での調査
※警察庁・日本自動車連盟
(JAF)合同調査

運動の重点

飲酒運転の根絶

酒飲み運転追放 3ない運動



1. 運転するときは酒を飲まない
2. 酒を飲んだら運転しない
3. 運転者には酒を出さない



ハンドルキーパー運動を
広めて、飲酒運転根絶を

平成26年上半年(1月1日～6月30日)

県内の交通事故

区分	発生件数	死亡事故		負傷者		
		件数	死者数	重傷	軽傷	計
本年	4,331	35	37	296	5,196	5,495
前年	4,823	31	33	356	5,824	6,180
増減数	-492	4	4	-60	-628	-685
増減率	-10.2	12.9	12.1	-16.9	-10.8	-11.1

平成26年上半年に宮城県内で発生した人身交通事故は、発生件数は前年を下回ったものの、死者数が増加しました。

交通事故の特徴

- 高齢者が死者の約半数を占め、高齢ドライバーによる事故が大幅増加

65歳以上の高齢者の死者は18人で、全死者数の半数近い48.6%を占めています。また、高齢運転者による死亡事故が12件(12人(+9件+9人))と大幅に増加しています。

- 歩行中の事故が多い

歩行中の交通事故死者は11人(横断中8人、背面通行1人、その他2人)で、前年より5人増加しています。事故原因を見ると、走行車両直前・直後横断(5件)、信号無視(2件)等歩行者側にも何らかの違反が認められました。

- 正面衝突事故等車線はみ出しによる事故が多い

正面衝突事故、自損による工作物衝突事故といった車線をはみ出して対向車や電柱等の工作物に衝突する事故が多発し、全死亡事故の約半数を占めています。